

平成20年度冬作関係 除草剤・生育調節剤試験判定内容

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成20年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成21年9月9日(水)に第一ホテル両国において開催された。この検討会には、試験場関係者18名、委託関係者28名

ほか、計73名の参集を得て、除草剤24薬剤(98点)について、試験成績の報告と検討が行われた。その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成20年度 冬作関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤 (1) 小麦

注) アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判定	使用基準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
1. BCH-081フロアブル フルフェナセト 40%、 ジフルフェニカン 10%(w/v) [バイエル クロップ・サイ エンス]	継								・効果、葉害の確認
2. HSW-062フロアブル インダノファン10%、 ジフルフェニカン 4% [北海三共]	実	一年生雑 草、イヌガタ レ	土壌	播種後出芽 前、雑草発生 前	150～ 250mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	北海道	・薬に白斑を生じる場合がある ・イヌガタが多発する圃場 では高用量で使用する	
			茎葉兼 土壌	出芽直前～ 小麦3葉期、 雑草発生始 まで	100～ 200mL 散布水量 100L				
3. KUH-043顆粒 水和 ピロキサスロン 50% [クマアイ化学工業]	一								・(作用性)
4. MBH-075 乳 プロスルホカルフ 46% リニエロン 11.5% [丸和ハイオケミカル]	実・ 継	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前、雑草発 生前	400～ 600mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	・砂壌土では生育抑制を 生じる場合がある ・SU抵抗性、ジニトロアニリン 抵抗性、およびその複合 抵抗性に有効	・葉害の発生要因に ついて ・カスノコグサに対する 効果の確認 ・400mL処理での抵 抗性スズメノテッポウに 対する効果の確認
		*抵抗性ス ズメノテッポウ			500～ 600mL 散布水量 100L				
5. MK-243フロアブル インダノファン 10% [日本農薬]	実	一年生雑 草	土壌	播種後～小 麦3葉期、イ ネ科雑草1葉 期まで	300～ 500mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	全域	・SU抵抗性、ジニトロアニリン 抵抗性、およびその複合 抵抗性に有効 ・タネツケバナには効果が劣る	
		カスノコグサ		播種後出芽 前、雑草発 生前					
		*抵抗性ス ズメノテッポウ		播種後～小 麦3葉期、 スズメノテッポウ1 葉まで					
6. MK-243細粒 インダノファン 0.8% [日本農薬]	継								・効果、葉害の確認

A. 除草剤 (1) 小麦

注) アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判 定	使用規準						継続の内容		
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意	
7. NC-613乳 エスプロカルブ [*] 60% シフルフェニカン 1.5% [日産化学]	実・継 と	一年生雑 草、イヌガツ シ	土壌	播種後～小 麦出芽揃、 雑草発生始 まで	300～ 400mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除 く)	北海道 東北以南	・葉に白斑を生じる場合が ある *SU抵抗性、シントロア ニリン 抵抗性、およびその複合 抵抗性に有効 ・イヌガツシが多発する圃場 では高薬量で使用する	・カラスミギに対する効果 の確認。 ・ネズミミギに対する効果 の確認	
		一年生雑 草		播種後～小 麦出芽揃、 雑草発生始 まで	300～ 500mL 散布水量 100L					
		*抵抗性ス ズメノテッポウ		播種後～小 麦出芽揃、 スズメノテッポウ 発生始まで						
		カスノコグサ		播種後～小 麦出芽揃、 カスノコグサ発 生始まで	400～ 500mL 散布水量 100L					
8. RSH-44乳 シフルフェニカン 3.7%、 トリフルラリン 37.0% [バイエル クロップ [*] サイ エンス]	実・継 と	一年生雑 草、イヌガツ シ	土壌	播種後出芽 前 雑草発生前	150～ 250mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除 く)	北海道 東北以南	・葉に白斑を生じる場合が ある ・イヌガツシが多発する圃場 では高薬量で使用する	・北海道での出芽直 前～揃期処理の効果・薬害の確認 ・小麦2～3葉期の関 東以西への拡大 ・カスノコグサ、ネズミミギ [*] に対する効果の確認	
					200～ 250mL 散布水量 100L					
				茎葉兼 土壌	小麦1～3葉 期		100～ 150mL 散布水量 100L			北海道 東北、北 陸
					小麦2～3葉 期		200～ 250mL 散布水量 100L			
		一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前 雑草発生前	400～ 500mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除 く)	北海道 東北以南	・葉斑、黄化、縮葉などの 症状がみられる場合がある *SU抵抗性、シントロア ニリン 抵抗性、およびその複合 抵抗性に有効		・カスノコグサ、カラスミ ギ、ネズミミギに対する 効果の確認 ・北海道での出芽直 前～出芽揃期処理 の効果、薬害の確認 ・播種後出芽前～小 麦2葉期処理での、イ ヌガツシに対する効果 の確認 ・抵抗性スズメノテッポウ [*] に対する効果の年次 変動の検討
				小麦1～2葉 期						
*抵抗性ス ズメノテッポウ		播種後出芽 前、スズメノテッ ポウ発生前								
小麦1～2葉 期、スズメノテッ ポウ1Lまで										
10. SYJ-100粒 プロスルホカルブ [*] 8% [シンジエンタ ジャパ ン]	継								・効果、薬害の確認	
11. SYJ-227粒 プロスルホカルブ [*] 7%、 リニエロン 1.75% [シンジエンタ ジャパ ン]	継								・効果、薬害の確認	

A. 除草剤 (1) 小麦

注) アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判 定	使用規準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
12. WOC-01液 グリホサートイソプロピル アミン塩 41% [三井化学アグリ]	実・ 継	多年生イネ 科雑草	茎葉	耕起または 播種前、雑 草生育期(草 丈30cm以下)	250～ 500mL 散布水量 25～100L	全土壌	北海道	・少水量散布(25～ 50L/10a)の場合は少量散 布用ノズルを使用する ・周辺作物に飛散しないよ うに注意する	・播種直前処理の薬 害について年次変動 の確認
		一年生雑 草		250～ 500mL 散布水量 100L	東北以南				
		播種後出芽 前、雑草生 育期(草丈 30cm以下)		250～ 500mL 散布水量 25～100L					
		小麦生育期 雑草生育期 (草丈30cm 以下) (圃場周縁)							
13. ZK-122液 グリホサートカリウム塩 44.7% [シンジェンタ ジャパ ン]	実・ 継 (従来ど おり)	多年生イネ 科雑草	茎葉	耕起3日以前 雑草生育期 (草丈30cm 以下)	500～ 750mL 散布水量 25～100L	全土壌	北海道	・少水量散布(25～ 50L/10a)の場合は少量散 布用ノズルを使用する ・作物に飛散しないように 注意する	・播種後出芽前処理 での効果、薬害の確 認
		一年生雑 草		耕起または 播種前、雑 草生育期(草 丈30cm以下)	250～ 500mL 散布水量 25～100L		東北以南		
		小麦生育期 雑草生育期 (草丈30cm 以下) (圃場周縁)							
14. トリフルラン乳 トリフルラン 44.5% [タウケミカル日本]	実・ 継	一年生雑 草(ツクサ、カ ヤツクサ、キ ク、アブラナ科 雑草を除く)	土壌	播種後出芽 前 雑草発 生前	200～ 300mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除 く)	全域	・中耕培土後処理は、播種 後の土壌処理剤との体系 で使用する。	・カスノコグサに対する 効果の変動要因の 確認
		一年生イネ 科雑草		播種後～小 麦3葉期、イ ネ科雑草1葉期 まで			北海道		
		一年生イネ 科雑草、 カスノコグサ		小麦生育期 中耕培土後 雑草発生前			東北以南		

A. 除草剤 (2) 大麦

注)アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判 定	使用規準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
1. BCH-0817ロア ブル フルフェナセト 40%、 シフルフェニカン 10%(w/v) [ハイエール クロップ サイ エンス]	継								・効果、薬害の確認
2. Hoe-866液 クルホシネート 18.5% [ハイエール クロップ サイ エンス]	実 (従来ど おり)	一年生雑 草	茎葉	耕起前7～14 日	300～ 500mL 散布水量 100～ 150L	全土壌	全域	・周辺作物に飛散しない用 に注意する	
				播種後出芽 前、雑草生 育期(草丈 30cm以下)			東北以南		
				大麦生育期 雑草生育期 (草丈30cm 以下) (圃場周縁)			全域		
3. MBH-075 乳 プロスルホカルブ 16% リニエロン 11.5% [丸和バイオケミカル]	実・ 継	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前、雑草発 生前	400～ 600mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除 く)	東北以南	・黄化、生育抑制を生じる 場合がある	・薬害の発生要因につ いて
4. NC-613乳 エスプロカルブ 60%、 シフルフェニカン 1.5% [日産化学工業]	実・ 継	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前、雑草発 生前	300～ 500mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除 く)	東北以南	・葉に白斑を生じる場合が ある ・砂壌土では生育抑制を 生じる場合がある	・出芽直前～摘期処 理での効果、薬害の 確認 ・抵抗性スズメノテッポ ウ、カスノコグサ、ネズミ ギに対する効果の確認
5. SYJ-100粒 プロスルホカルブ 8% [シンジエンタ ジャパ ン]	継								・効果、薬害の確認
6. SYJ-227粒 プロスルホカルブ 7%、 リニエロン 1.75% [シンジエンタ ジャパ ン]	継								・効果、薬害の確認
7. ZK-122液 グリホサートカリウム塩 44.7% [シンジエンタ ジャパ ン]	実・ 継	一年生雑 草	茎葉	耕起または 播種前 雑草生育期 (草丈30cm以 下)	250～ 500mL 散布水量 25～100L	全土壌	全域	・少量散布(25～ 50L/10a)の場合は少量散 布用ノズルを使用する ・作物に飛散しないよう に注意する	・大麦出芽直前処理 での薬害について年 次変動の確認
				播種後出芽 前、 雑草生育期 (草丈30cm以 下)					
				大麦生育期 雑草生育期 (草丈30cm 以下) (圃場周縁)	250～ 500mL 散布水量 25～50L				

A. 除草剤 (4) 水稲刈跡

注) アンダーラインは拡大された部分を示す。また、薬剤名のアンダーラインは、初めて使用基準が作成されたことを示す

薬剤名 有効成分及び 含有率(%)	判定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1. NC-622液 グリホサートナトリウム塩 48% [日産化学工業]	実・継	一年生雑草	茎葉	水稲刈取後 雑草生育期 (草丈30cm 以下)	200～ 500mL 散布水量 25～100L	全土壌	全域	・少量散布(25～ 50L/10a)の場合は専用ノズルを使用する	・ミズガヤツリ、オモダカ、クロクワイ以外の多年生雑草に対する、翌年の発生量低減効果の確認
		多年生雑草			500～ 1000mL 散布水量 25～100L				
		ミズガヤツリ、 オモダカ、クロクワイ (翌年発生低減効果)			水稲刈取後 雑草再生時 (草丈30cm 以下)				
2. NHS-50粒 塩素酸ナトリウム 50% [三草会]	実・継 (従来どおり)	一年生雑草、多年生イネ科雑草、マツバ	土壌	水稲刈取後 雑草生育期	20～25kg	全土壌	東北以南		・多年生イネ科雑草に対する薬量と効果の確認 ・多年生広葉雑草に対する、当年の効果、および翌年の発生量低減効果の確認
3. ZK-122液 グリホサートナトリウム塩 43% [シンジェンタ ジャパン]	実・継	一年生雑草	茎葉	水稲刈取後 雑草生育期 (草丈30cm 以下)	200～ 500mL 散布水量 25～100L	全土壌	東北以南	・少量散布(25～ 50L/10a)の場合は少量散布用ノズルを使用する	・オモダカ、クロクワイ、キショウズメノヒエ以外の多年生雑草に対する、翌年の発生量低減効果の確認
		多年生雑草			500～ 1000mL 散布水量 25～100L				
		オモダカ、クロクワイ、キショウズメノヒエ (翌年発生低減効果)			水稲刈取後 雑草再生時 (草丈30cm 以下)				